

経済・金融 フラッシュ

1月ECB政策理事会:50bp の利下げで政策金利は2%に

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

欧州中央銀行(ECB)は15日に政策理事会を開催、50bpの利下げを決めた。4カ月連続の利下げで政策金利は2%の過去最低水準に並んだ。今回の追加利下げは「経済見通しの一層の悪化によりインフレ圧力の後退が続いている」ことに対応したものと説明された。

質疑応答で、トリシェ総裁は、「2%は(政策金利の)下限ではない」として追加利下げの可能性を示唆すると同時に「非常に低い水準」への利下げは否定した。追加利下げのタイミングは四半期に一度の経済見通しの公表月となる3月に行う意向を示した。3月の利下げ幅は最低でも50bpと見込まれ、2009年半ばには政策金利が1%に達する可能性が濃厚になってきた。

(経済見通しの悪化に対応、4カ月連続の利下げ)

欧州中央銀行(ECB)は15日に政策理事会を開催、50bpの利下げを決めた。利下げは4カ月連続、この間の利下げ幅は225bpとなり、政策金利は2%と過去最低水準に並んだ(図表1)。

前回12月の政策理事会後の記者会見では、10月以降、異例のピッチで利下げを進めてきたことを強調し、追加利下げに慎重な姿勢を示していた。しかしながら、今回、50bpの大幅利下げに踏み切った理由を、トリシェ総裁は「経済見通しの一層の悪化によりインフレ圧力の後退が続いている」ことに対応したもので、「全員一致」で決定したと説明した。

声明文の中では、①「前回理事会後のサーベイや月次統計は経済活動が明らかに一層弱まっていることを示し、警戒されていた下振れリスクが現実化した」という前回よりも厳しい景気判断、②中期的なインフレ・リスクの判断の「以前よりも均衡」から「概ね均衡」への変更、③マネーの伸びを「中期的なインフレ・リスク」とする表現の削除などによって、景気見通しの悪化とインフレ・リスクの後退が表現された。

(3月の追加利下げを示唆)

トリシェ総裁は、質疑応答で、2%という政策金利の水準を「下限ではない」として追加利下げの可能性を示唆すると同時に、「流動性のわなにはまるつもりはない」として、「(FRBや日銀に並ぶような)非常に低い金利水準」への引き下げは否定、「デフレのリスク」も排除した。

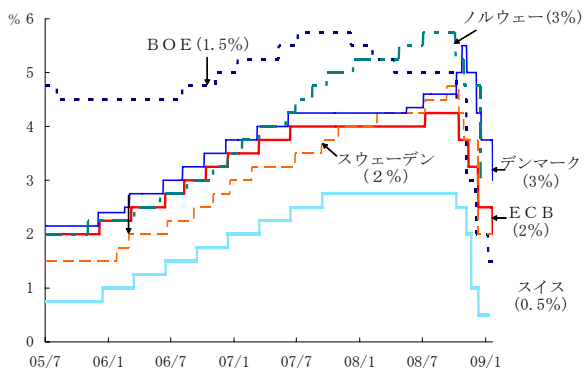
次回利下げの時期について、3週間後の2月5日に開催される次回理事会は「様子見」とするが、「新たに重要な情報が出揃う」3月5日の理事会は「重要」として、利下げに踏み切る用意があることを強く示唆した。

(利下げ幅は最低でも 50bp に)

3月の理事会開催時には四半期に1度のECB／ユーロシステムのスタッフ経済見通しが公表される。急激に悪化した経済指標を織り込むことで、12月時点でマイナス0.5%（予測の中央値）とされた2009年の成長率がさらに下方修正され、1.4%とされた物価の見通しも引下げられることになるだろう。

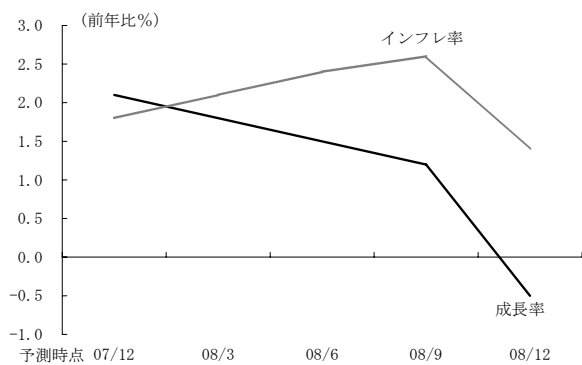
3月の利下げ幅は最低でも50bpと見込まれ、2009年半ばには政策金利が1%に達する可能性が濃厚になってきた。

図表1 ヨーロッパの中央銀行の政策金利



(資料) 各中央銀行

図表2 ECB／ユーロスタッフの2009年経済見通し



(資料) ECB

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。